

# 令和4年度自己評価結果公表シート

作成 キッズステーションしょうぐんの

## 1、本園の教育目標

にこにこ すくすく いきいきと育つ子ども

## 2、本年度、重点的に取り組む目標や計画

- ・教育目標の具現化に向け、保育者間で活動計画を共有し、学年の枠組みを超えて主体的な活動を支えるための環境構成がどうあるべきか探る。
- ・充実した活動を展開するために、園の環境を活かした保育内容を計画・実践する。

## 3、評価項目の達成および取り組み状況

	評価項目	結果	取り組み状況の反省
学園の重点項目	学園の教育・保育目標の具現化に向け、保育者間で活動計画を共有し、学年の枠組みを超えて、子どもたちの主体的な活動を支えるための環境構成がどうあるべきか探る。	B	他学年と協力・連携しながら保育してきたが、子どもたちの成長発達の過程や内面の理解とねらいや計画にずれが生じていた。子どもたちの主体的な活動とはどういうことか、発達の状況を的確に把握し、適宜に話し合うなど共通理解が必要と思われる。
自園の重点項目	保育者同士のコミュニケーションを円滑にし、子どもたちが保育者との信頼関係の中で、安心して自分を表すことが出来るような保育を計画・実践している。	A	子どもたちがゆったりとした環境の中で、自分の要求や欲求を表せるような生活環境や、保育者との関わり方を重視した。個々の発達や月齢を考慮したグループ毎の保育など、発達の見通しを持ち、状況に合わせて修正しながら取り組むなど、今後も継続していきたい。
	自分に必要な資質能力を理解し、園の課題に反映するキャリアステージを選択した研究の取り組みを行う。	A	自分なりに課題を持って、学びを同僚や若手職員に発信する姿勢を大事にしてきている。今後、研修や外部からの情報を園の課題に反映するなど、引き続きキャリアアップを図りたい。

#### 4、学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<p>職員一人ひとりが自身と向き合い、意欲的に研究課題を学ぶ姿勢が見られた。</p> <p>反面、学年の取り組みの中に「ねらい」や「育って欲しい姿」と、実際の保育内容に隔たりがあり、取り組みへの課題が見られた。基本に戻り、保育者間での話し合いの場を設け、「ねらい」や「子どもにとっての」活動の意義など見直した計画作成と実践への取り組みが必要と思われる。</p>

※3、4の評定結果の表示方法

【A】…十分達成されている。【B】…達成されている。【C】…取り組まれているが、成果が十分ではない。

【D】…取り組みが不十分である。

#### 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<p>学年の枠を外して、一人ひとりの発達や成長の幅を考慮し、保育者間で総合的に連携して計画・実践する。</p>	<p>ねらいをもって物的環境を提示したことに満足して終わらず、月齢や発達に合わせた保育展開につなげる。</p>
<p>園の課題を明確化することで、必要な課題を理解し、自身の役割や資質能力の向上に取り組む。</p>	<p>職員一人ひとりの研究・研修を受講だけで終わらせず、園全体に還元し、園内での自分の役割を考慮した研修体制を整える。</p> <p>職員間で共有し、より質の高い保育体制を整備できるよう引き続きとりくむ。</p>